

ごあいさつ

一般財団法人全日本ろうあ連盟
理事長 石野富志三郎

新型コロナウイルス感染症により、2年連続で全国ろうあ者大会の中止を余儀なくされましたが、本日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席のもとに、厚生労働大臣を始めとするご来賓をお迎えし、また全国から2,000名を超す参加者を迎え、第70回全国ろうあ者大会を開催することができました。この喜びを、3年ぶりにここに集う皆さんと分かち合いたいと思います。

また、この度ブラジルで開催された「第24回夏季デフリンピック」では、コロナ禍による多くの活動の制限にも負けず、日本代表選手団は金12、銀8、銅10の計30個と過去最高のメダル数を獲得しました。

その一方、コロナ感染症対策の努力をして参りましたが、日本選手団でも大会期間中の陽性判定者が20名を超える結果となり、選手たちの命と健康を守り、開催地の市民や他国の選手へのさらなる感染拡大を防ぐため、5月11日以降、日本選手団が全競技を出場辞退したことは皆様ご存じのとおりです。

大会に向け5年間、練習を積み重ねてきたにも関わらず、競技に出場することなく帰国した選手もいることを大変心苦しく思うと共に、皆様にこのような報告をしなければならないことを本当に残念に思います。

私たちは、選手や関係者の皆さんの様々な思いを受け止めると共に、デフスポーツの一層の発展のため、これからも努力を続けたいと思います。

そして、私たちにとって悲願である「障害者アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が本年5月に成立しました。この法律は、連盟や国内の当事者団体・支援団体が、12年もの長きにわたって制定を求めてきたものです。2010年から始まった「We Love コミュニケーション」パンフレット普及・署名運動では、全国から116万筆もの賛同の署名をいただき、中には、東日本大震災で被害を受けた地域からの署名もありました。多くの方の想いが盛り込まれた法律であり、情報へのアクセスがいつでも保障され、誰一人取り残されることのない社会の実現に向けて大きな力となることを確信しています。

加えて、附帯決議には手話言語法の立法を含め、手話に関する施策の一層の充実の検討を進めることも盛り込まれました。今後、スポーツ場面における情報アクセシビリティ・コミュニケーションが一層改善されることが期待されており、この法律の精神をデフリンピック2025年東京開催の成功に繋げていけるよう、これから本格化される準備に励んでいきたいと思っております。

最後になりますが、本大会開催にご努力いただきました実行委員会の皆さま、公私ともお忙しいところをご臨席くださいました広島県および広島市をはじめ、ご来賓の皆さまに厚くお礼を申し上げ、開会の挨拶といたします。